



彫画:伊藤 太一

We will make a fresh step everyday.

〈にっしん〉

2018年9月
仮決算から



日新信用金庫

The Nisshin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

日本は、地震、豪雨、台風等、多くの自然災害にみまわれました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。今もなお、多くの方が不自由な生活をおくられています。

一日も早い復興、復旧を心よりお祈り申し上げます。

日本国内の景気は、政府による政策のもと緩やかに拡大しています。企業の設備投資は企業収益が改善基調をたどり、増加傾向にあります。また、個人消費も、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、緩やかに増加しています。

しかし、少子高齢化による人口減少や就労人口の減少といった国内の構造的な問題に加え、米中貿易摩擦の深刻化、中国経済の減速、原油価格の高騰などの国際的な問題により景気の先行きには不透明感が増えています。

中小企業にあっては、人手不足に伴う人件費の高騰や原材料価格の上昇などコスト増加による収益面の問題、潜在的に抱えている経営者の高齢化、後継者問題の深刻化など多くの経営課題に直面しています。

そうした中、平成30年9月末の預金残高は7,461億円、貸出金残高は3,409億円となり、当期純利益は、お蔭さまをもちまして896百万円を計上することができました。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.21%と十分な水準にあります。

仮決算の概況を次ページ以降にグラフを用いて分かりやすくまとめてみましたので、ご一読いただければ幸甚でございます。

平成30年度は、新たな中期3ヶ年事業計画「共創力～豊かな地域の未来を創る信用金庫を目指して～」の初年度であります。

〈にっしん〉は引き続き「お客さま第一主義」を旨とし、地域経済がどのような環境下であろうとも、地域住民や中小企業のライフステージに応じて発生するさまざまな課題の解決に向けてきめ細やかな支援に努め、的確で円滑な資金供給を通じて地域社会の持続的発展に貢献できるよう一生懸命に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年11月

お詫び：自己資本比率に計算相違がありましたので一部訂正させていただきます。

絆（地域とともに持続的発展を）

- 〈にっしん〉は、ヴィッセル神戸を応援しています。



平成24年から毎年ヴィッセル神戸サッカークリニックを開催しています。

- 地域行事等へ積極的に参加しています。



大久保支店（H30.8）

緑が丘支店（H30.8）

お客さまの安心・安全のための取組み

- 防犯訓練の実施

強盗犯や特殊詐欺に対する防犯訓練を定期的に実施しています。



強盗犯による模擬訓練 明石駅前支店（H30.5）

- 特殊詐欺による被害を未然に防止しました。

垂水警察署から感謝状の贈呈をうけました。



舞子支店（H30.5）

- 市民救命士講習会

明石市消防本部様による市民救命士講習会を実施。心肺蘇生法やAEDの取扱など、応急処置について指導を受け、新入職員36名が市民救命士に認定されました。



平成30年度新入職員（H30.7）

地域貢献活動

- 【明石市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を「明石市こども基金」へ寄付し、明石市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。

（明石市内の10店舗）
取扱期間：
平成30年4月16日～
平成31年1月31日



- 【神戸市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を神戸市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。

（神戸市内の17店舗）
取扱期間：
平成30年4月16日～
平成31年1月31日



（くわしくは店頭チラシをご用意しております。）

- 【子育て応援定期積金 夢すくすく】

対象：
18歳以下のお客さまがおられ、親権者としてお子さまの定期積金をご契約される個人のお客さま。

取扱期間：
平成30年4月2日～
平成31年3月29日



『にっしん輝きメッセ2018』を開催しました！

- 国際フロンティア産業メッセ2018の会場内で、「にっしん輝きメッセ2018」を開催し、〈にっしん〉を含む25社（28ブース）が出展しました。大勢の方にお越しいただき、盛会となりました。



（9月6日、7日の2日間をわたり、神戸国際展示場（ポートアイランド）で開催）

店舗

- 神戸支店



現地建替えのため平成30年7月23日よりNTT葺合ビル1階で仮店舗営業中です。

- 鈴蘭台支店



平成30年9月25日
ベルスト鈴蘭台に新築オープン

- 加古川支店



平成30年12月10日
旧店舗跡地に新築オープン予定

〈預金〉



【預金】

預金は、平成30年3月末対比297億円増加し7,461億円となりました。毎年3月末は、地方公共団体等の預金が一旦引き出されることから、実際増加額は146億円となります。

定期性預金については8億円の増加、流動性預金については289億円の増加となりました。新たなお客さまが増えたことにより、法人預金は252億円の増加、個人預金は45億円の増加となりました。

今後も多くのお客さまの要望にお応えし、皆様よろこばれる信用金庫を目指してまいります。

【貸出金】

貸出金は平成30年3月末対比48億円増加し3,409億円となりました。保証協会保証付貸出も順調に増加しています。預貸率は低下していましたが、これは預金の増加額が貸出金の増加額を上回ったためです。

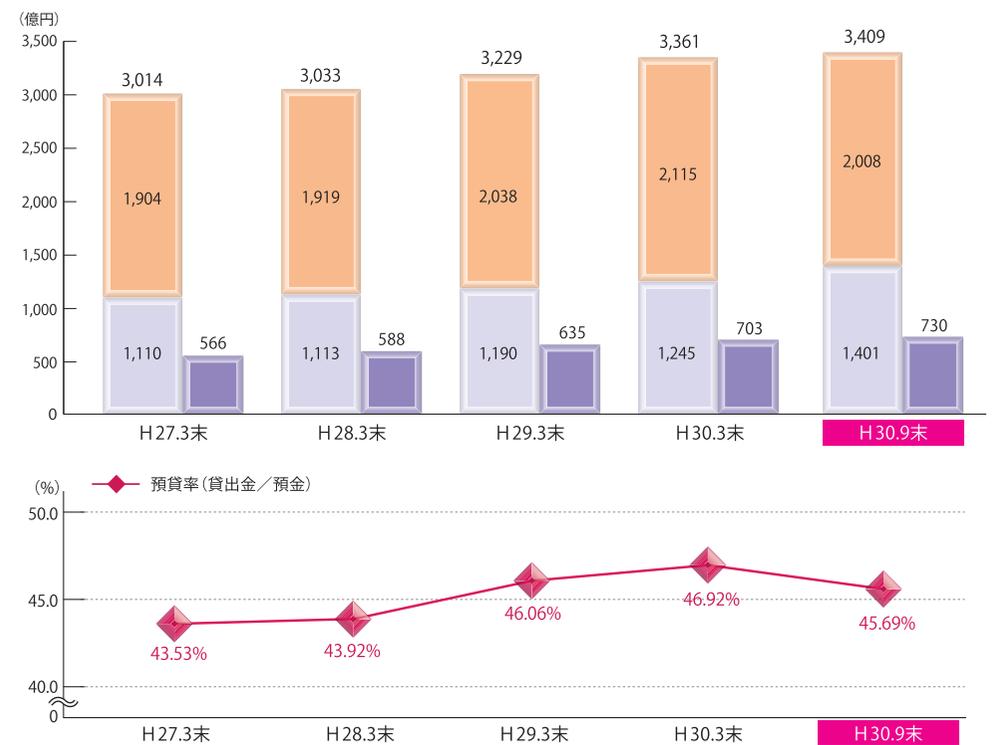
これからも地域の皆様のお役に立てるよう、積極的に融資推進に取り組むとともに、適切で円滑な資金の提供に努めてまいります。

【業種別構成比】

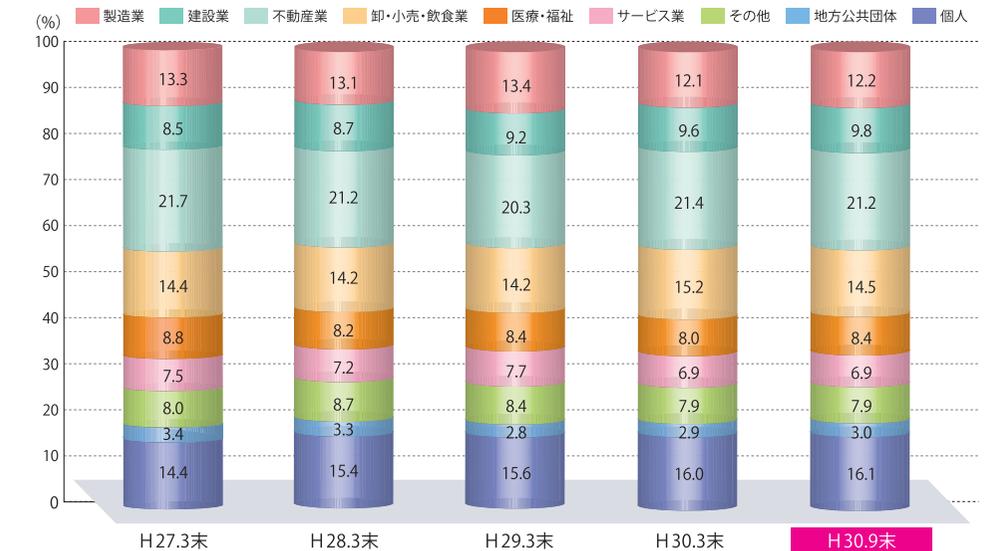
貸出金の業種別構成比の推移をみると、平成30年3月末と比較し、製造業で0.1%、建設業で0.2%、医療・福祉で0.4%の増加が見られ、不動産業で0.2%、卸・小売・飲食業で0.7%の減少となっています。

また、個人向けの貸出金は、住宅ローンの獲得を中心とした営業活動の強化により0.1%増加しており引き続き増加傾向にあります。

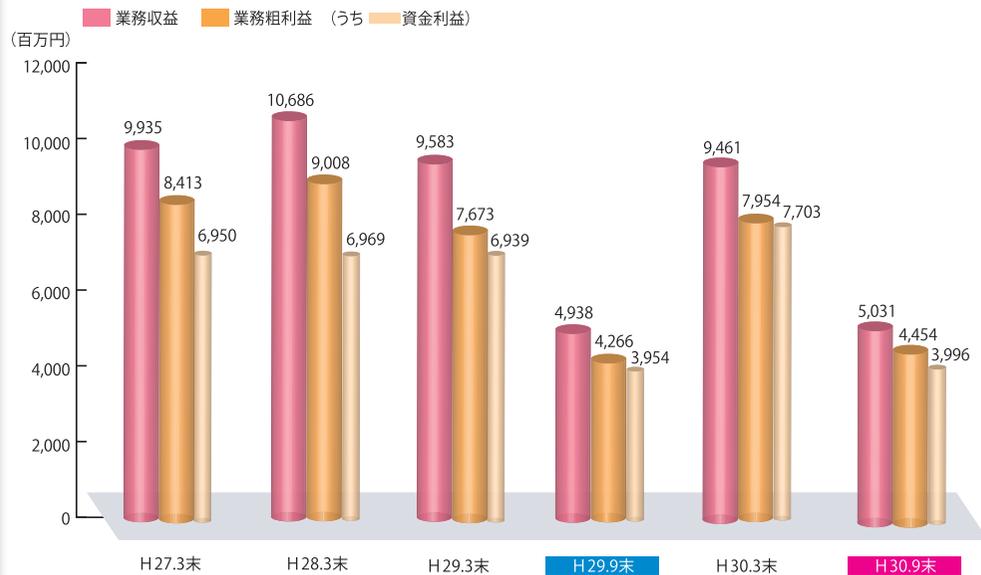
〈貸出金と預貸率〉



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

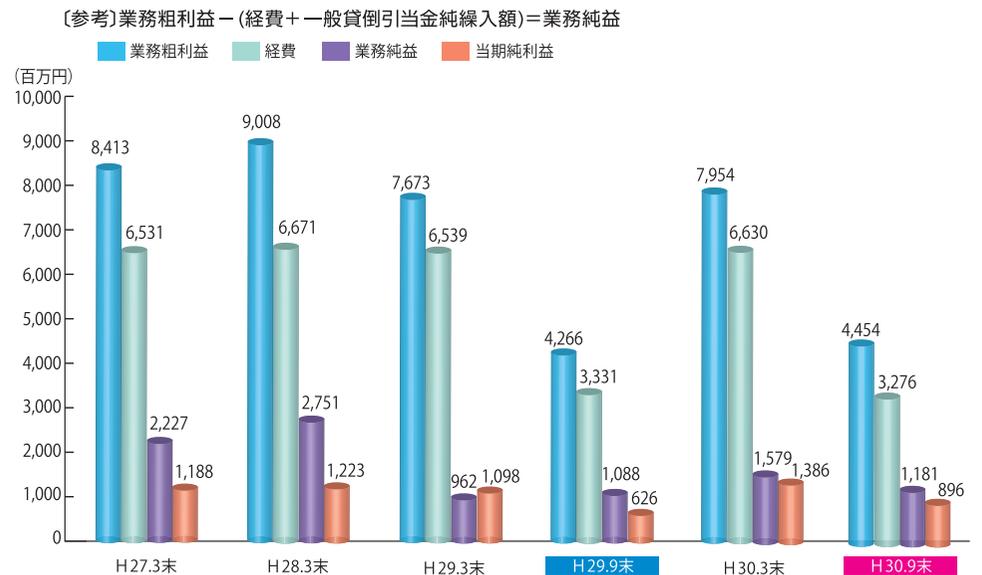


一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、貸出金利息、有価証券利息配当金が減少したものの債券売却益の増加などにより、前年同月に比べて92百万円の増収になりました。

業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益の増収と預金利息などの原価の減少により、前年同月に比べて187百万円の増益となりました。

その結果、資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益-預金支払利息)は、前年同月に比べて42百万円の増益となりました。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期純利益〉

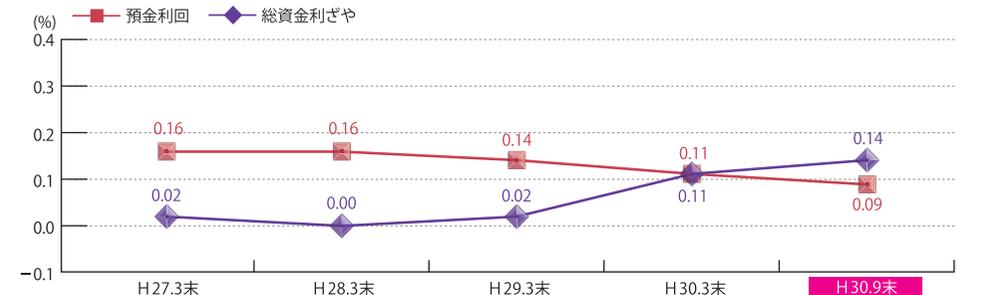
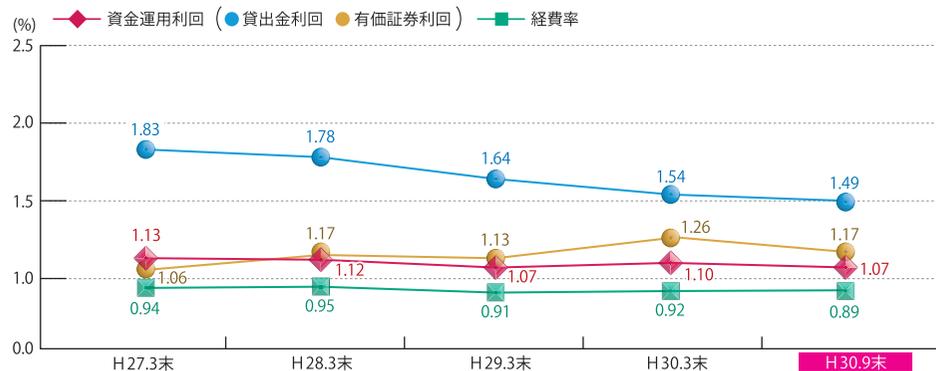


経費は、人件費が前年同月に比べて53百万円減少したことから、55百万円減少の3,276百万円となりました。

業務純益は、一般貸倒引当金繰入額が150百万円増加したものの、経費の減少と業務粗利益が187百万円増益したことから、93百万円増益の1,181百万円となりました。

当期純利益は、業務純益の増益に加えて、個別貸倒引当金繰入額など臨時費用が前年同月に比べて減少したことにより、269百万円増益の896百万円となりました。

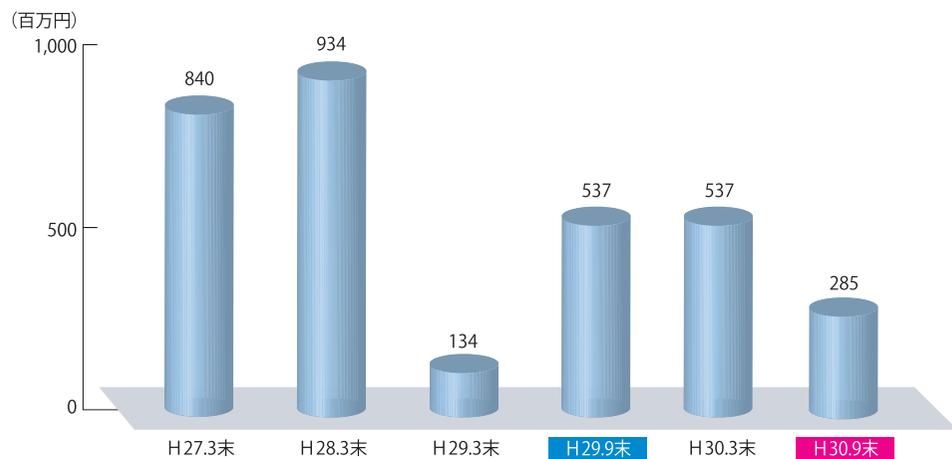
〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



資金運用利回は、市場金利の低下に伴い貸出金利回および有価証券利回が低下したことで1.07%になりました。

総資金利ざやは、預金利回が低下したことから0.14%と改善しました。これからも収益力の更なる向上に努めてまいります。

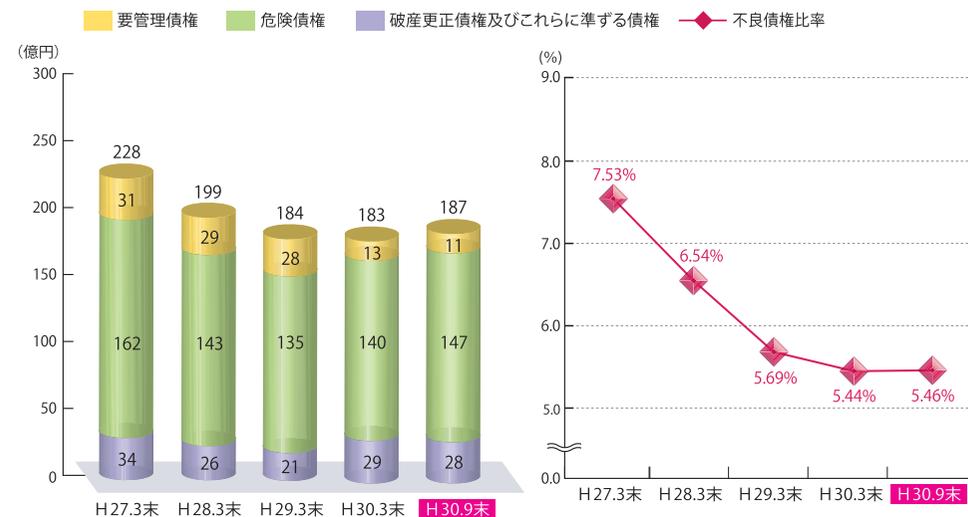
〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



平成30年9月末の不良債権処理費用等は、前年同期と比較して大きく減少し285百万円となりました。これは、今年度に大口の不良債権の発生がなかったことによります。

今後、さらに貸出債権の不良化防止に向けて、経営改善支援や融資審査能力向上などに全力で取り組んでまいります。同時に将来のために引当も十分に行ってまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



不良債権は、要管理債権、危険債権及び破産更正債権及びこれらに準ずる債権に分類されます。

平成30年9月末の不良債権残高は187億円となり、平成30年3月末に比べて4億円増加し、不良債権比率は5.46%と上昇しました。これは、ミドルリスク先を含めて積極的に融資を取組んでいることから、不良債権が増加したものです。

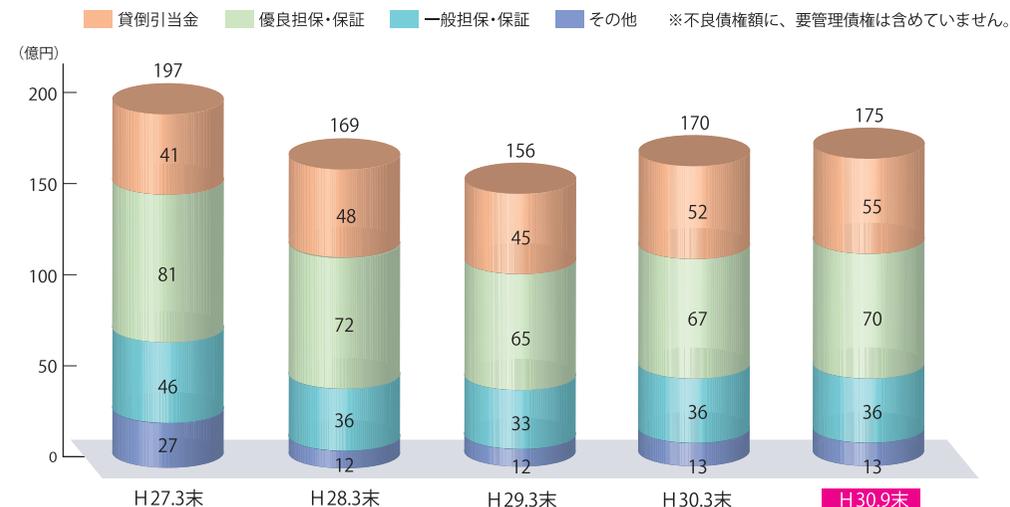
なお、破産更正債権及びこれらに準ずる債権28億円は、未保全額に相当する額を個別貸倒引当金として計上していますので、会計上損失処理済みです。

貸出金の不良化を防ぐためにお客さまと一体となって経営改善支援に取り組むとともに、お客さまのお役に立てるように円滑な資金の提供に取り組んでまいります。

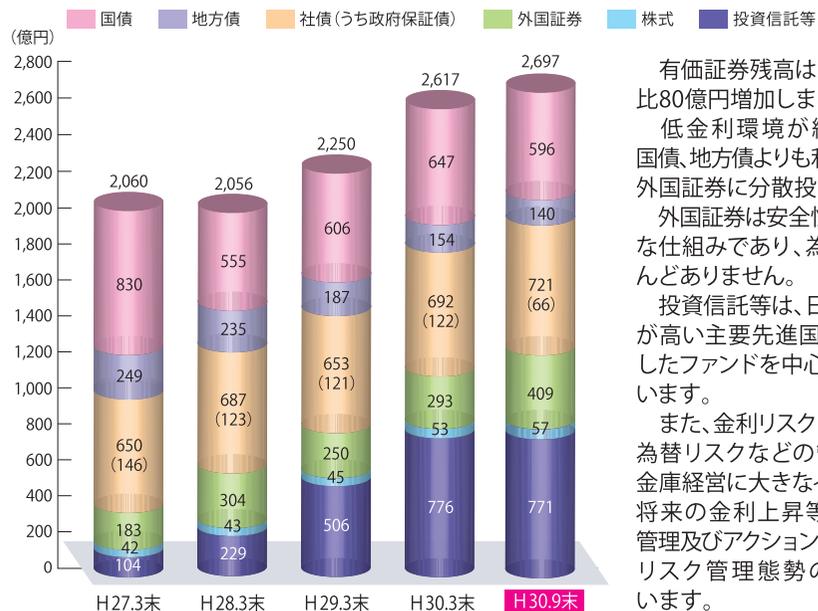
〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

平成30年9月末の不良債権(要管理債権を除く)は、175億円あります。その保全状況は右の通りです。

175億円の内、55億円は貸倒引当金として積んでおり、会計上は損失処理済といえます。優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている額が70億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている額が36億円、合わせて106億円は、回収が確実であると見込んでいる額です。残りの13億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

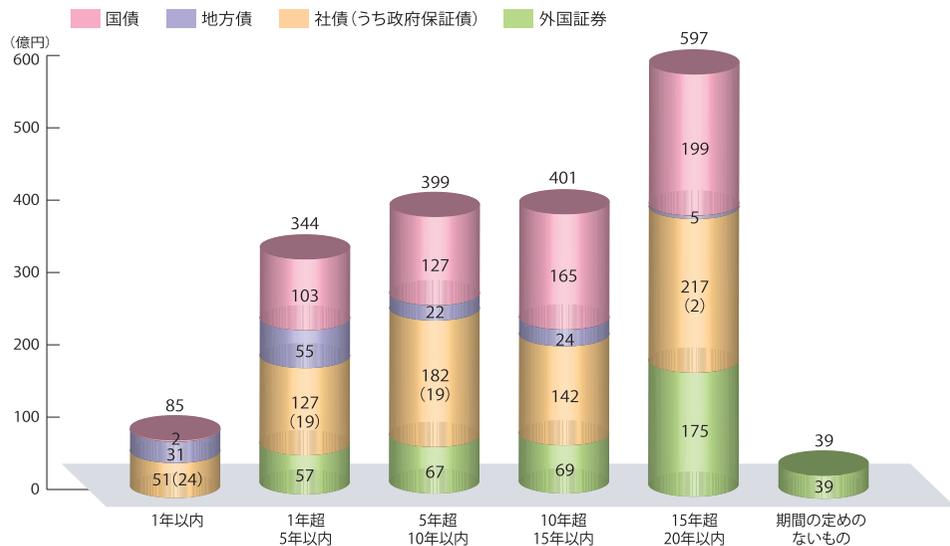


〈有価証券の種類別保有状況(平成30年9月30日現在)〉



有価証券残高は、平成30年3月末比80億円増加しました。
 低金利環境が続いているため、国債、地方債よりも利回りの高い社債、外国証券に分散投資しています。
 外国証券は安全性を重視した単純な仕組みであり、為替リスクはほとんどありません。
 投資信託等は、日本より市場金利が高い主要先進国の国債を対象としたファンドを中心に分散投資しています。
 また、金利リスク、価格変動リスク、為替リスクなどの管理に追加して、金庫経営に大きなインパクトがある将来の金利上昇等に備えて、予兆管理及びアクションプランを実施してリスク管理態勢の強化に努めています。

〈債券[償還までの期間別に見た残高](平成30年9月30日現在)〉



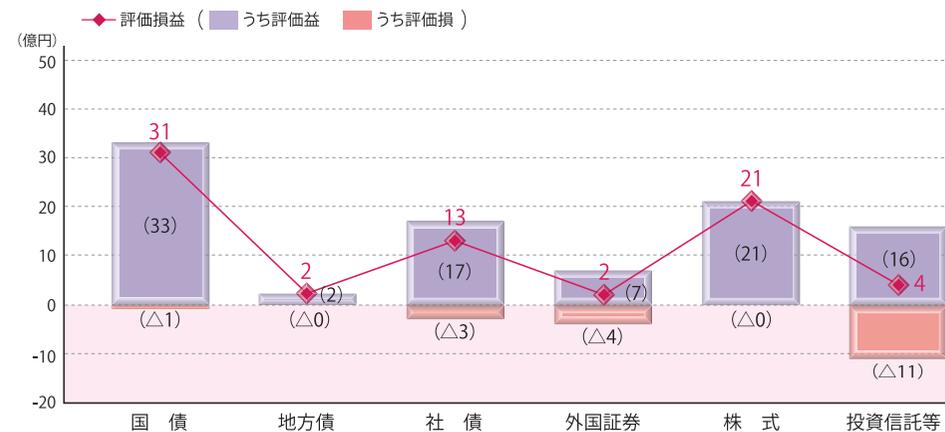
有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りは0%付近もしくはマイナス金利であるため、期間10年超20年以内の国債、地方債、社債、外国証券にも投資しています。なお、期間20年超の債券への投資は行なっていません。

〈有価証券の評価損益の推移〉



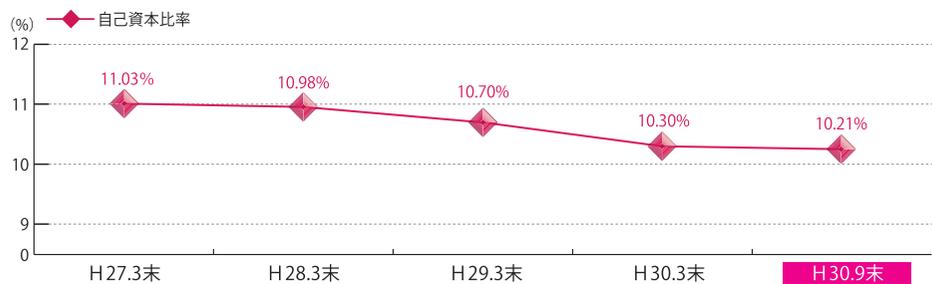
平成30年9月末現在、有価証券の評価益は98億円、評価損は20億円です。有価証券全体で差引77億円の評価益となっています。

〈有価証券の種類別の評価損益(平成30年9月30日現在)〉



平成30年9月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。全ての種類で評価損益はプラスとなっています。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



(億円)

	H27.3末	H28.3末	H29.3末	H30.3末	H30.9末
リスクアセット	3,011	3,082	3,271	3,500	3,612

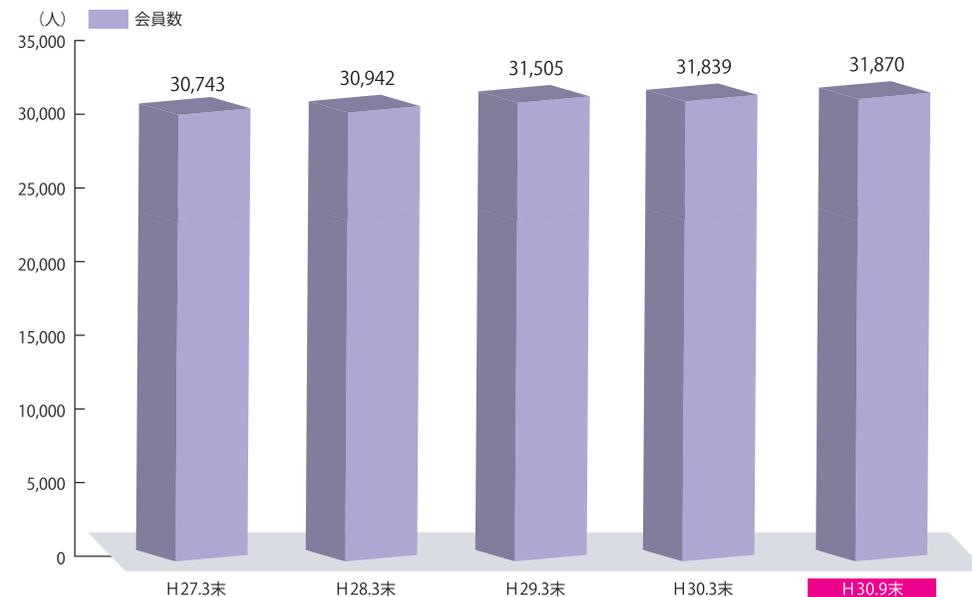
自己資本比率は、平成30年9月末で10.21%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、自己資本の額が増加したものの貸出金や社債の増加などによりリスクアセットが増加し、前年度に比べて0.09ポイント低下しましたが、国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

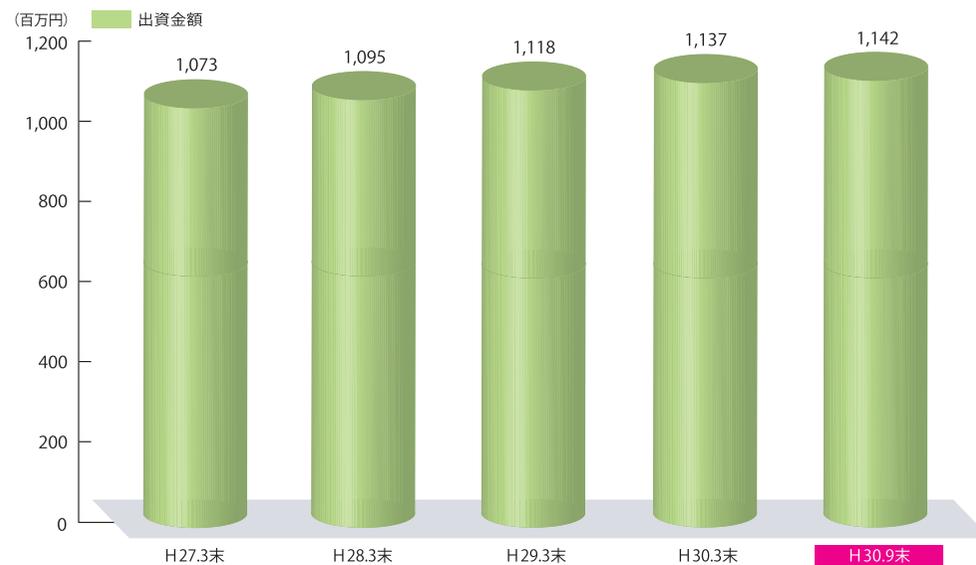
お詫び: リスク・アセット、自己資本比率に計算相違がありましたので一部訂正させていただきます。

〈会員数〉



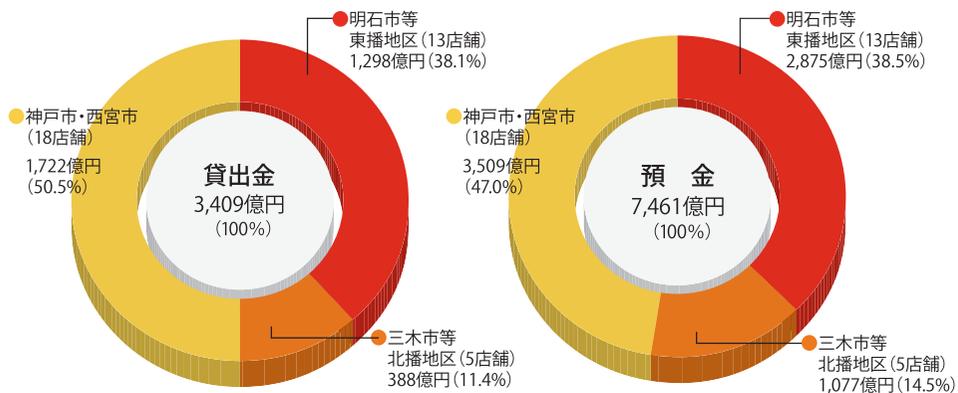
新規融資先の増加により会員数が増加しています。

〈出資金額〉

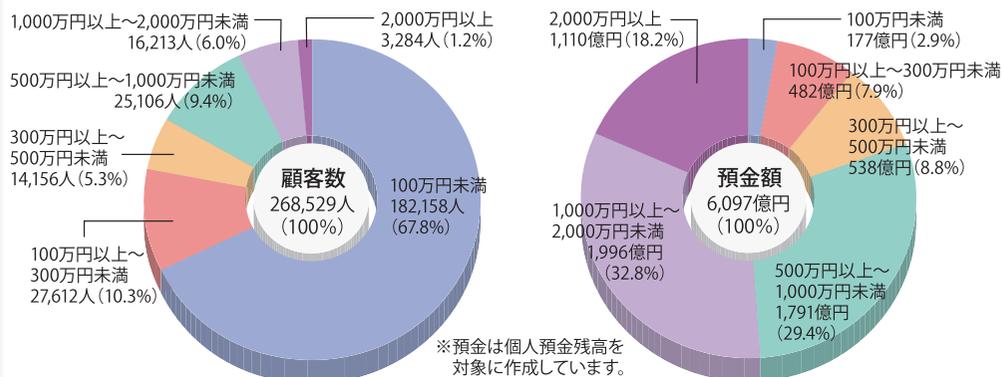


会員数の増加に伴い、出資金額も増加しています。

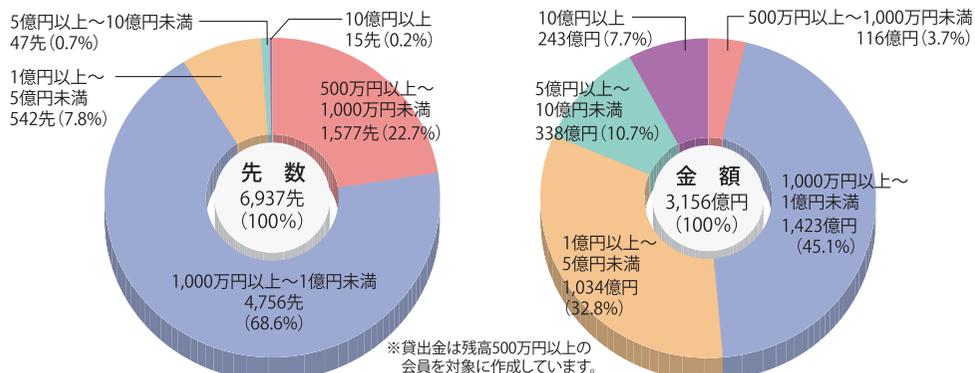
〈貸出金・預金の地域別構成〉（平成30年9月30日現在）



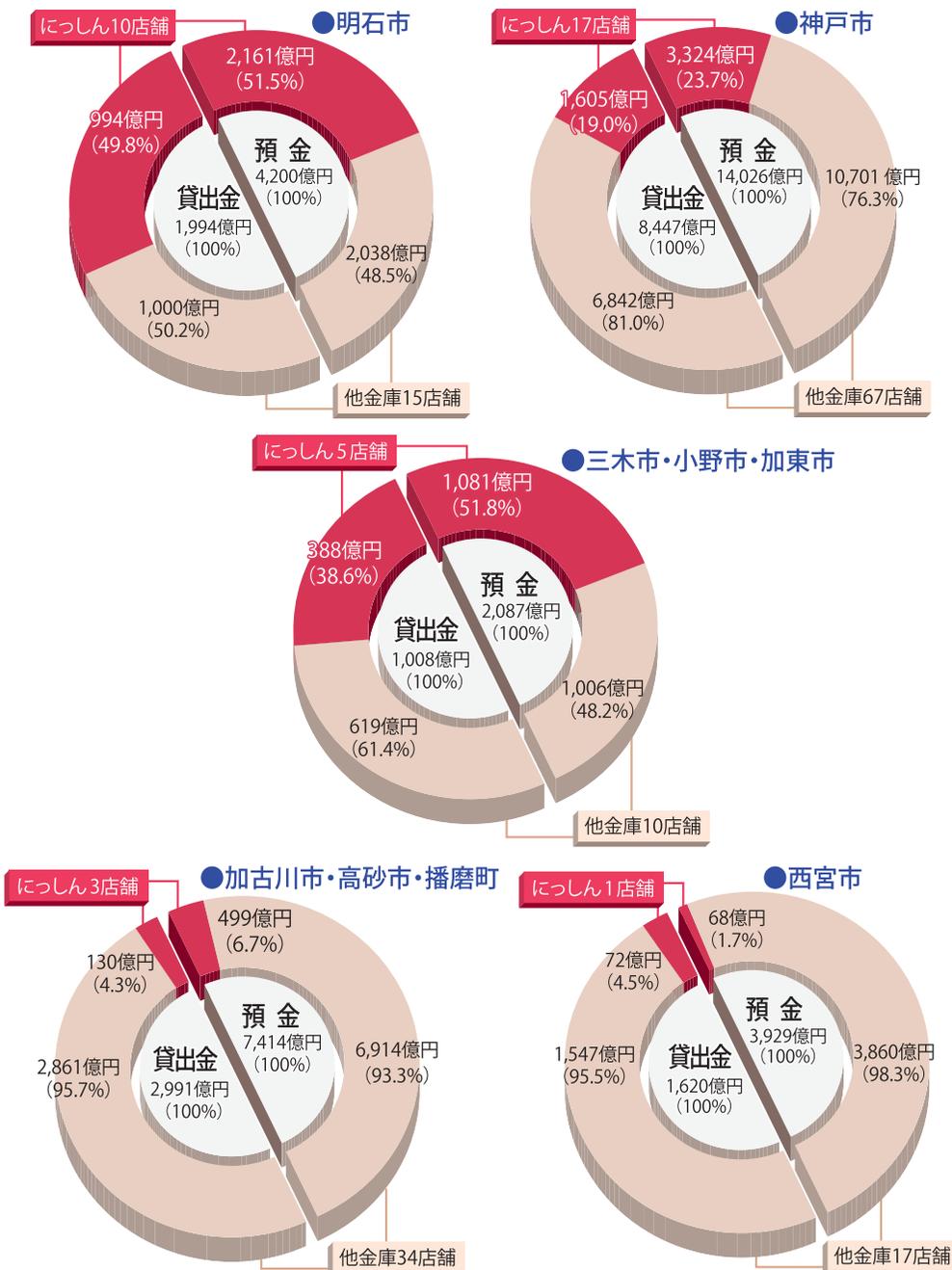
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別にみた顧客数と預金額〉（平成30年9月30日現在）



〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別にみた先数と金額〉（平成30年9月30日現在）



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉（平成30年3月31日現在）



1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成29年9月末	平成30年9月末	前年同期比
現金・預け金	235,818	223,134	△ 12,684
コールローン	—	—	—
有価証券	222,717	269,725	47,008
貸出金	335,533	340,937	5,404
事業性貸出金	274,914	275,893	979
貸倒引当金	△ 5,985	△ 6,162	△ 177
うち個別貸倒引当金	△ 5,252	△ 5,535	△ 282
資産の部合計	799,182	838,707	39,524

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	平成29年9月末	平成30年9月末	前年同期比
預金・積金	722,817	746,158	23,340
個人預金	590,382	609,969	19,587
借入金	28,800	45,000	16,200
負債の部合計	758,528	796,865	38,336
出資金	1,128	1,142	14
利益剰余金	33,938	35,548	1,610
その他有価証券評価差額金	5,587	5,150	△ 437
純資産の部合計	40,653	41,842	1,188
負債及び純資産の部	799,182	838,707	39,524

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項 目	平成29年9月末 (平成29年4月1日～9月30日)	平成30年9月末 (平成30年4月1日～9月30日)	前 年 同 期 比
業務粗利益……………②	4,266	4,454	187
うち資金利益	3,954	3,996	42
うち役員取引等利益	149	126	△ 22
うちその他業務利益	162	330	167
一般貸倒引当金繰入額③	△ 154	△ 4	150
経費……………④	3,331	3,276	△ 55
業務純益……………①	1,088	1,181	93
実質業務純益……………⑤	934	1,177	243
臨時損益……………⑦	△ 61	94	156
うち個別貸倒引当金繰入額	691	289	△ 401
うち株式関係損益	627	402	△ 224
経常利益……………⑥	1,026	1,276	249
特別損益	0	0	△ 0
税引前当期純利益……………⑨	1,027	1,277	249
当期純利益……………⑧	626	896	269

■主な項目の計算方法

- ①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費
 ⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額
 ⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益
 ⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	平成29年9月末		平成30年9月末		前 年 同 期 比
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	44,942	13.4%	41,605	12.2%	△ 3,337
農業・林業	68	0.0%	44	0.0%	△ 24
漁業	16	0.0%	—	—	△ 16
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—
建設業	30,247	9.0%	33,457	9.8%	3,210
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,349	0.4%	1,170	0.3%	△ 179
運輸業・郵便業	13,383	4.0%	13,766	4.0%	383
卸売業・小売業	42,202	12.6%	42,082	12.3%	△ 120
金融業・保険業	12,586	3.8%	12,008	3.5%	△ 578
不動産業	70,717	21.0%	72,282	21.2%	1,565
物品賃貸業	3,006	0.9%	3,630	1.1%	624
学術研究・専門・技術サービス業	1,613	0.5%	1,849	0.5%	236
宿泊業	2,450	0.7%	2,334	0.7%	△ 116
飲食業	7,242	2.2%	7,358	2.2%	116
生活関連サービス業・娯楽業	3,584	1.1%	3,486	1.0%	△ 98
教育・学習支援業	980	0.3%	254	0.1%	△ 726
医療・福祉	26,642	7.9%	28,500	8.5%	1,858
その他のサービス	13,878	4.1%	12,060	3.5%	△ 1,818
小 計	274,914	81.9%	275,893	80.9%	979
地方公共団体	8,580	2.6%	10,040	3.0%	1,460
個人(住宅・消費・納税資金等)	52,037	15.5%	55,003	16.1%	2,966
合 計	335,533	100.0%	340,937	100.0%	5,404

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	平成29年9月末				平成30年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	202,742	7,734	9,270	1,536	249,758	7,127	9,209	2,081
国 債	45,600	3,378	3,437	59	48,832	2,803	2,952	149
地方債	17,155	423	423	—	14,025	287	293	5
社 債	66,377	2,207	2,274	67	72,136	1,379	1,700	321
うち 政府保証債	12,221	320	321	1	6,628	110	112	2
うち 公社公団債	6,459	506	506	—	6,365	440	440	—
うち 金融債	—	—	—	—	—	—	—	—
うち 事業債	47,696	1,381	1,446	65	59,142	829	1,147	318
外国証券	17,875	546	613	67	31,786	39	487	447
株 式	4,960	1,639	1,642	2	5,772	2,119	2,150	31
うち子会社・関連会社株式	149	—	—	—	149	—	—	—
投資信託	50,705	△ 477	861	1,339	77,140	479	1,606	1,126
その他	67	17	17	—	64	19	19	—
満期保有目的の債券	20,751	776	792	16	20,607	640	653	13
国 債	11,359	504	504	—	11,238	388	388	—
外国証券	9,391	271	287	16	9,368	252	265	13
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 評価損益は、9月末日の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	平成29年9月末	平成30年9月末
業 務 純 益	1,088	1,181
経 常 利 益	1,026	1,276
コア業務純益	789	862
当期純利益	626	896

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

(単位:百万円)

項 目	平成29年9月末	項 目	平成30年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	35,066	普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	36,691
うち出資金及び資本剰余金の額	1,128	うち出資金及び資本剰余金の額	1,142
うち利益剰余金の額	33,938	うち利益剰余金の額	35,548
うち外部流出予定額(△)	—	うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	770	コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	653
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	770	うち一般貸倒引当金コア資本算入額	653
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	35,836	コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	37,344
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	396	コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	442
自己資本の額(C-D) …… (E)	35,439	自己資本の額(C-D) …… (E)	36,902
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	339,901	リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	361,273
単体自己資本比率(E)/(F)	10.42%	単体自己資本比率(E)/(F)	10.21%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。

自己資本の質の向上を図るため、2014年3月のパーゼルIII適用により、これまでの補完的資本とされていた劣後債や劣後ローン等を外し、出資金、利益剰余金、一般貸倒引当金などの合計から調整項目を控除したものが「コア資本」と定義されました。

お詫び:リスク・アセット等、自己資本比率に計算相違がありましたので一部訂正させていただきます。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	平成29年9月末	経過措置による不算入額	平成30年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	35,066		36,691	
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,128		1,142	
うち、利益剰余金の額	33,938		35,548	
うち、外部流出予定額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	770		653	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	770		653	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	35,836		37,344	
コア資本に係る調整項目(2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	190	47	158	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	190	47	158	—
前払年金費用の額	206	51	283	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	396		442	
自己資本				
自己資本の額(イ)-(ロ)=(ハ)	35,439		36,902	
リスク・アセット等(3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	325,833		346,788	
資産(オン・バランス)項目	325,056		345,947	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 5,078		△ 3,677	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)	47		—	
うち、前払年金費用	51		—	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 5,178		△ 3,677	
オフ・バランス取引等項目	609		665	
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	167		174	
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	14,068		14,485	
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	339,901		361,273	
自己資本比率((ハ)/(ニ))	10.42%		10.21%	

(注)
1. 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。
2. オペレーショナル・リスクは基礎的手法を採用しています。

お詫び:リスク・アセット等、自己資本比率に計算相違がありましたので一部訂正させていただきます。

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 ÷ 8%

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	平成29年9月末(A)	平成30年9月末(A)	前年同期比
	債権額	債権額	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	2,331	2,830	499
危険債権	14,712	14,723	11
要管理債権	1,542	1,146	△ 396
不良債権合計	18,586	18,701	115
正常債権	318,129	323,392	5,263
合 計	336,715	342,093	5,378
不良債権比率	5.520%	5.467%	△ 0.053%

保全状況(平成30年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保・保証のない部分(C)=(A)-(B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保金額(E)=(B)+(D)	保全率(E)/(A)
	破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,476	1,354	1,354	100.00%	2,830
危険債権	9,175	5,547	4,160	75.00%	13,336	90.58%
要管理債権	621	524	150	28.63%	772	67.34%
不良債権合計	11,273	7,427	5,666	76.28%	16,939	90.58%

■本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■本誌に掲載している数値については、会計監査人による監査を受けていません。

店舗一覧

明石市中央部	本店	営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	石駅前支店		明石市桜町11-14	078(911)8181
	丸支店		明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店		明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店		明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店		明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店		明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	大江井ヶ島支店		明石市大江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店		明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店		明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店		加古川市加古川町寺家町308-1	079(422)6066
	宝本殿荘支店		(平成30年12月10日より下記新店舗で営業) 加古川市加古川町寺家町311-3	
三木市・小野市・加東市	三木支店		三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店		三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小天滝支店		小野市上本町237-2	0794(63)1135
	野神支店		加東市天神492	0795(47)1011
	野支店		加東市上滝野2413	0795(48)2010
神戸市東部	本魚支店		神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	山崎支店		神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	西甲支店		神戸市灘区桜口町3-1-107	078(841)0141
	西灘支店		神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店		神戸市中央区小野柄通4-1-14	078(231)2731
	神宇治川支店		NTT葺合ビル1階(仮店舗)	
	栄支店		神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	兵庫支店		神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	平野支店		神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	板宿支店		神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
神戸市北部	鈴蘭台支店		神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店		神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店		神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店		神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店		神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店		神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店		神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店		西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489



日新信用金庫



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489

(受付時間)平日午前9時から午後5時まで
<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>